序＝断片的ヴィジョン（５）

一瞬の呼吸停止
を　永続的に黙示する＜　＞
として、
通巻第６号を　不可視化しつつ、第７号　へと　跳躍する。

ゲーテ絶筆の三月書簡（１８３２年３月１７日）の根拠～波動量が、アマ～カム互換重合、正反四相、対向発生をふくむ潜象物理とともに人類（史）的に対象化され体現され得ている場合、＜甲山＞事件（１９７４・３・１７～３・１９）は現象せず、たとえ現象し得る場合にも、発生要因の潜象過渡からの解明は　発生・前に実現されている、と言い得る根拠を実践しつつ――――。（倫理としてではない。物理として。）

＜光子＞・＜悟＞――――その存在性・名（ナ）～音声思念・こそは、現代科学にとどまらない現人類の全～域の限界極を指し示し、それは法的審理においてすら影を落とし、＜被告存在＞に対する、逮捕、不起訴、再逮捕、起訴、無罪、破棄差し戻し、と、激しい揺れを生み出している。

また、＜１９７４年３月＞という情況下に、六甲山系の東端甲山で発生しているイミ。

＜ファウスト＞を＜封印＞して死んだゲーテの根拠（＜ファウスト＞の真実は、人類史的に未だ未開封。）に（も）共振し得る波動量を自ら鍛え抜く方向軸。

ナントシテモ　ソノ呼吸ヲ　浄化槽ノ汚泥カラ　ヨミガエラセナケレバナラナイ　――――その不可能性の重力を、生命をかけて対象化～転倒し抜く度合いでしか、＜事件＞も、本質的な＜支援＞も、成り立たない――――。

大学闘争・・・に関する批評～資料・集　は、通巻第６号を黙示する不可避の構成要素＝特集号として、甲山（学園）闘争～甲山事件・マスコミ篇　を刊行していきます。

～１９９０年５月～

仮装被告（団）